

第2回タウンミーティング（JR 芦屋駅南地区第二種市街地再開発事業）	
日 時：	令和元年8月10日（土） 午前 10時から正午まで
場 所：	市民センター401 室
参 加 者：	64名
市出席者：	伊藤市長，佐藤副市長，長田技監，山城都市建設部参事， 鹿嶋都市整備課長，東山整備推進担当課長，都市整備課課員 5 名

市長あいさつ要旨	
現在，JR 芦屋駅南地区におきまして，再開発事業を進めており，事業計画決定まで手続を終えている状況ではございますが，市民の皆さんからご意見やご要望をお聞きして，まとめていきたいと思っております。先月6日の第1回タウンミーティングでは，約120名の方のご参加をいただき，多くの方がこの事業に興味をお持ちになっていただいていると実感しております。事業に対する関心，また，市民の皆さんと行政が一緒になった取り組みの必要性を改めて強く認識したところでございます。 本日は，前回いただきましたご意見に対する市の考え方，地区内でオープンハウスを開設しました状況などの説明とともに意見交換をさせていただきます。2時間という限られた時間ではございますが，できる限り中身の濃いものにしたいと思っておりますので，ご協力いただきますよう，よろしくお願いいたします。	
事業の進捗状況説明	当日資料の説明。
意見交換	
計13名の方々からご意見をいただき，意見交換を行った概要は以下のとおりです。	
交通に関すること	
①	交通量調査は，計画する前に行うべきで，急に1日間のみ調査するのはおかしい。データをとらないで思い込みで計画してきたように感じる。 しっかりとしたデータがあれば，簡単にシミュレーションができ，動画で説明できるのではないか。 市の説明・回答）交通量調査を実施した上で計画していますが，この度，新たな調査も加えてより分かりやすく説明したものです。シミュレーションを行ったとしても同じ結果になると考えています。

②	交差点における車両の滞留長の調査は、学校が夏休み期間の朝8時台に1回行うだけでは不十分。朝6時台から調査したほうが良いと思う。 都合のいいデータを作ろうとしているように見える。 市の説明・回答) 前回、交通広場を整備することに伴い渋滞発生を心配するご意見を受け、交差点の手前にどれだけ車が滞留するのかを調査・予測したものです。 朝6時台の交通量は少なく、学校が休みであってもバス便数に変わりはないため、バスの動きに関しては、今回の調査方法で問題はないと考えています。
③	市の案では、バス・タクシー乗降場や一般車乗降場が非常に大きく、道路に沿って停車帯を設けることができない。ロータリー型ではなく、通過型にすると十分な停車帯が整備できる。 バス・タクシー乗降場内の混雑時での交通状況が検討されていない。バスは定時運行ができず、多い時は30秒に1台進入してくる。バスの進入が集中した場合、タクシーも進入してくる状況でどのようになるのか、実際の動きをアニメーションなどで説明してほしい。バスがロータリー内に一挙に10台くらい進入すると、収拾がつかなくなるのではないかと。 市の説明・回答) バスのダイヤは、運行に支障がないように計画されと考えています。また、バスの実地走行など、点検も行って計画をしています。阪急バスやタクシー会社などと協議しながら、円滑な運用が図れるようにしていきます。
④	通過型とした場合の交通状況についても定量化して、ロータリー型と比較できるような説明をしてほしい。 市の説明・回答) 通過型は、駅北側のように、バス停付近での人の乱横断や、送迎の停車車両が発生するなど、安全性が確保できません。バスやタクシーの乗降場と通過交通とを分離し、安全な交通広場となるようロータリー型を採用しています。
⑤	一般車乗降場は、車道の幅が狭く、車両が停車していると出られなくなるので、使用しないと思う。停車可能な台数も10台程度では足りないため、道路に停車せざるを得ず、現在と同じ交通問題が起こる。 市の説明・回答) 一般車乗降場は、道路構造令などの基準に沿った幅員を設け、円滑な通行が可能な計画としています。 停車可能な台数は、現在の交通量や実態などを調査し、必要な台数(7台程度)を確保しています。

⑥	通過型が良いとの意見があるので、折衷案として駅前広場西線・東線を拡幅してバス停を設け、ロータリーはそのまま残し、民間の送迎バスと一般車が利用できるようにすると良いのではないかと。 市の説明・回答) 現状の土地利用から見て駅前広場西線・東線の拡幅は困難です。なお、交通広場の形状は、安全性を確保するため、ロータリー型が最適であると考えています。
⑦	交通広場の整備後は駅南側の路線バス本数が260便となっているが、バス路線は増えるのか。 市の説明・回答) 駅南側を発着するバスは増えていますが、運行経路は決まっています。
⑧	現在、バスは駅前広場西線・東線を東行きに通行しているが、駅前線が整備され、南北の相互方向に通行可能となると、中央線が混んでいることやバス便数も増加するため、駅前線が渋滞するのではないかと。バスの運行経路についても考慮して計画してほしい。 市の説明・回答) バスの運行経路についてのご懸念やご不安は、これまでもお聞きしており、既に阪急バスに伝えていますが、本日のご意見も再度伝えます。
⑨	駅北側のロータリーを、一般車両の停車帯として使用するなど、有効に活用できれば、駅南側の交通の解決に結びつくのではないかと。 市の説明・回答) 駅南側の再開発が完了した後に、駅北側の課題解決を図っていきたいと考えています。
⑩	バス停は、駅北側に集約すればよいのではないかと。駅北側の交通課題は、送迎車の駐停車と通過車両であり、それらを山手幹線に回すことにより、バスだけが通行することになりスムーズになるのではないかと。 また、計画には利用者の目線が抜けている。駅北側で買い物をした人はそのままバスに乗れる方がよい。バスに乗るために駅南側に行くのは不便で、南北どちら側からバスに乗れば良いのか分かりにくい。 駅南側では、民間送迎バスが多いため、民間送迎バスの停車スペースを確保すれば良いと思う。 市の説明・回答) 現状、山手幹線からの車両の流入もあり、駅北側の交通に負担がかかっています。北から来る乗降客数・南から来る乗降客数などの交通量調査を行い、駅の南北に交通広場が必要と判断しています。 駅舎改良工事において、エスカレーター、エレベーターを整備することで、駅を中心とした南北が一体となったスムーズな動線を確保します。 また、利用者に分かりやすいサイン計画も同時に行います。

⑪	他の駅の事例では、駐車場を整備し、30分間までは無料、それを超えると有料としているところがある。そうすると違法駐車が無くなるのではないか。
バリアフリーに関すること	
①	駅利用者の中には、大きな荷物を持った高齢者を多く見かける。そういった現状を踏まえて、JRとすり合わせしながら計画を進めているのか。 市の説明・回答) 市とJRとは「駅舎改良工事等の施行に関する協定書」を取り交わし、お互い協力することとしています。JRが計画を行い事業を進めていますが、南側のエレベーターやエスカレーターの整備など、バリアフリー対策もしっかり進めていきます。
②	エレベーターとエスカレーターは近くに配置し、利用者に分かりやすいものにしてほしい。
ペDESTリアンデッキに関すること	
①	ペDESTリアンデッキのA・B・Cそれぞれの案のコストは、どうなっているか。 市の説明・回答) A案のボリュームが大きいのは見てとれると思いますが、各案の具体的な費用は現在、算定していません。
②	ペDESTリアンデッキの案は、どのように決定するのか。また、検討結果は説明してもらえるのか。 市の説明・回答) 工事費、維持管理費、景観などの観点から比較検討します。 また、大きなものにすると下が暗くなる、エレベーターを設置したほうが良いなど、いただいたご意見も参考にしながら検討していきたいと考えています。 検討結果については、説明会や広報などにより、お知らせしていきたいと考えています。
③	ペDESTリアンデッキにバス停の近くに降りることができるエレベーターを設置してほしい。 市の説明・回答) ペDESTリアンデッキ検討案の中では、C案だけにエレベーターが設置されていますが、ご要望を踏まえ、検討をしていきたいと思っています。
再開発ビルに関すること	
①	再開発ビル内のエレベーターを施設利用者と居住者で共用すると、混雑が生じるのではないか。また、セキュリティ面や衛生面からも、共用しないほうがよい。 市の説明・回答) 施設利用者用エレベーターは3階までとなります。居住者用エレベーターは別に設置する計画としています。 利用者のマナーについては、啓発・周知をして、利用者のご協力が得られるようにしていきます。

②	施設利用者用エレベーターは、24 時間か、少なくとも始発から終電まで使用できないと問題である。 市の説明・回答) エレベーターの利用可能時間等、再開発ビルの運用については、管理組合などビルを所有される方等と、今後、検討していくこととなります。
事業費に関すること	
①	現在の計画では、事業採算が取れないと思われる。用地買収の価格設定や、商業施設の床が売れない場合など市の負担をどう考えているのか。 街路事業であれば、広場空間をつくり、店舗も現在と同面積の土地に建てることができる。住宅地まで区域に入れずに事業ができ、住民は住み続けることができる。芦屋らしい身の丈に合った駅前の整備とすべきである。 市の説明・回答) 用地の価格は、適切な評価による正常価格になります。また、国庫補助金なども活用した上で、事業採算の点検を行い、事業を進めます。 事業手法は、本地区内にお住まいの方や商業の方のご意向を踏まえ、このまちづくりに最適な手法は再開発事業であるとして採用しましたので、ご理解いただきたいと思います。
事業の進め方に関すること	
①	このタウンミーティングは、事業をやるべきかどうかという根本的なところから目をそらし、個別の詳細すぎる意見交換になっている。巨額の費用をかけるならば、市民の大多数が賛同できるものにするべきだ。 市の説明・回答) これまで、事業の進め方がオープンになっていなかったと考え、市民の皆さんのお声を聞かせていただく機会として、タウンミーティングを開催しています。 計画の見直しを求める署名をいただいておりますが、この計画を白紙に戻すものではないと判断をしています。
②	市長は議員時代、多くの市民のために活動してこられたはずだが、このタウンミーティングは、まちづくり協議会と同じでアリバイづくりにすぎない。本当に市民が望む形にしてほしい。 市の説明・回答) 再開発事業を白紙撤回するためではなく、より良いものにするために活動をしてきた。民主的な手続きを経て、既に決定していることもありますが、多くのご意見をお聞きするためタウンミーティングを開催しています。

③	計画のどの部分であれば変えられるのかを市が明確にしないと、無駄な議論になってしまうのではないかと。 市の説明・回答) 都市計画決定で決めた部分や交通広場の形状は変えることはできません。 ペデストリアンデッキへのエレベーター設置やその他の運用に関しては、前向きに検討したいと思います。まずは、ご意見をお聞きし、内容によっては変えられるという部分もあると思います。
④	まちづくり協議会は計 40 回ほど開催しているようだが、タウンミーティングも同じくらい開催してほしい。
⑤	市長には強いリーダーシップが与えられていると思うが、市長と副市長とで意見が異なった場合、どのように決定していくのか。 市の説明・回答) 決定者は市長ですので、市長が決定していきます。
⑥	事業を進めるにあたり、収用を行う考えはあるのか。 市の説明・回答) 収用は考えていません。
⑦	なぜ一つの案で強権に拙速に決めてきたのか。複数案を比較・検討してほしい。 市の説明・回答) これまで検討を重ね、既に進んでいる事業であり、現時点で複数案をもって進めることは困難です。
⑧	興味があるなら市に見に来い、ホームページを見よというのでは、市民に知ってもらうための努力が不足している。 パブリックコメントも実施し、議会も通っているので、一見、民主的に見えるが、ほとんどの市民は大方が決まってから知らされている。 市の説明・回答) 周知の方法は工夫していきたいと思います。今年度から「市政モニター」制度も開始しているので、しっかりと取り組んでいきたい。
⑨	現時点で白紙撤回は無理だと思うが、できるだけ意見を聞いて進めてほしい。
⑩	市長は「市の計画に対して肉付けすることがあれば意見を出してください。直せるところは直します。」と言っている。一生懸命やっていくとのことであり、現在の計画で進めてもらって良いのではないかと。
その他	
①	まちづくり協議会が機能しておらず、賛成派の一部の方と市が進めている。

②	まちづくり協議会の運営に非常に問題がある。 市の説明・回答) まちづくり協議会は、スムーズな協議会運営ができるようにしたいと考えています。今後も諦めることなく努力していきます。
③	まちづくり協議会会員の中には、事業に反対している方もいる。その方たちとの信頼関係がないのではないかと。 市の説明・回答) 会員の皆さまには、膨大な時間を割いていただき、市の考え方と地元の考え方とのすり合わせを行ってきました。事業を見直すべきではないかというご意見が一部あることも承知していますが、最大多数の最大幸福を考え、ここまできています。これを全て白紙に戻すことは信頼関係を失うことになります。
④	第1回タウンミーティングで新聞記者を途中で退出させたが、意見交換も聞いてもらい、知らせていくことがオープンなのではないかと。 市の説明・回答) 意見交換を聞いていただくことを全く否定するものではありませんが、記者の方がおられない方が活発な話し合いができると考えたため、退出していただきました。
⑤	芦屋のまちは、高齢になっても輝いて生きていけるまちであり、不登校の子どももほとんどおらず、困ったときに困っていると言える子どもに育てたいと願って子育てをしているまちだ。子どもから高齢者までより良く生活できるまちづくりをしてほしい。 また、地震の時に電車が止まり、交通手段に困った。災害時のことも考えたまちづくりをお願いしたい。
まとめ	皆さまからの意見などのふりかえり。
閉会の市長あいさつ要旨	長時間にわたり、ありがとうございました。たくさんのご意見をいただきましたことに感謝を申し上げます。本当に皆さんのお声を聞くことが重要なことであると再認識させていただいたと同時に、事業の継続性も大切だと思っております。いただきましたご意見については、職員と一緒に考えてまいります。 今後もタウンミーティングを続けるのかというご質問があるかと思います。これについては、続けていきたい気持ちはありますが、一旦お聞きしたご意見を検討する時間をいただきたいと思います。個別にご質問やご意見がありましたら、いつでもお声を聞かせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。
閉会	